

働き方や女性の立場も 徐々に変わりつつあります

僕が来日して最初に就職した英会話学校では、毎日のように同僚や上司と飲みニケーションをしていました。まともな日本語が話せないのに愛想笑いをしなくてはいけないのが辛かったです。その頃と比べると、今は飲みニケーションが減り、誘われても断れるようになり、日本人も仕事中心の人生じゃなくなってきた感じがします。

社会や会社における女性の立場も変化したように思います。僕が就職活動を始めたときの面接で、事務職の女性にお茶出しをさせていたことに「この人はウエイトレスじゃないでしょう」という違和感がありました。お茶出しをさせるといのは上下関係が明らかになる瞬間なので、アメリカでは嫌がられますね。お茶やコーヒーは、飲みたい人が自分で用意するのが当たり前で、契約時の仕事内容になれば、やらないと思っただけです。

その他にも、会議で発言できない女性が多かったり、女性役員がいなかったりしましたが、徐々に改善され、違和感が減ってきました。でもまだまだ変えていけると思っただけです。ただ、特に女性の立場において、アメリカは全然お手本になりません。例えば、男女間で賃金の差別があり、

女性の平均賃金は、同じ職の男性の70〜80%しかもらえないし、パートタイムで働く主婦は蔑視されます。また、生活の中では、女性に対する暴力が深刻な問題です。アメリカでは1日に平均4人もの女性が配偶者等に殺されているんですよ。日本とはだいぶ状況が違いますよね。

日本はアメリカよりも 子育てしやすいつと思います

僕は子育てが本業で、芸能活動は趣味だと思っています。子どもが赤ちゃんだった頃、夜泣きをしたときの対応は僕の担当でした。ただ、おっぱいが必要なときは、奥さんしか持つていないから仕方なくお願いしました！子どもが大きくなってきた今では、食事のときのテーブルセッテイ

ングと片付け、皿洗いは僕と子どもがやっています。奥さんのご飯は本当においしいんですよ！

日本は子育てをする環境がすごく整っていると思います。母子手帳、出産手当金、乳幼児検診、医療費助成制度などのサポートシステムは素晴らしいです。

僕の子どもは持病で8回くらい入院していますが、もしアメリカに住んでいたら、すごく手厚い民間の保険に入っていないと医療費が高くて払えません。放課後の塾や習い事に子どもひとりで行かせても心配のない治安の良さも、共働きの親にとつてありがたいですね。

ワークモライフのひとつ バランスよく楽しもう

緊急事態宣言でリモートワークという働き方の選択肢が増えました。たとえば打ち合わせをするとき、慣れたメンバーならオンライン会議で充分だったりします。移動時間をなくせば、自分の時間が増えます。でも直接会って顔を見ながら話さないと記憶に残らないこともありますよね。そういう場合は、移動時間を執筆や資料の確認作業などに充てます。内容によって使い分けることで、効率的に実のある仕事ができるよう

にと常に考えています。

僕はワークモライフのひとつだと考えていて、マルチタレントとしての仕事は、趣味や経験を活かせることばかりで、申し訳ないくらい楽しいです。大学時代は肉体労働も好きで、トイレ掃除のアルバイトでは汚いトイレがピカピカになっていくことを楽しんでいました。どの職種でも言えますが、自分から率先して楽しんで働いている人が、より有意義な仕事を任せられるのではないのでしょうか。ライフは生きることだから、ロボットみたいに働くのではなく、働くことも楽しんで、喜びと充実感を得てほしいですね。

もちろん、人生はワークだけではありません。僕は、本も読みたいし、映画も観たいし、家族と話したいし、飲みにも行きたい、そして、長期休暇を取って海外旅行もしたい。宗教に興味があるので、昨年は望望のインドへの旅を経験しましたが、今後、訪ねてみたいと思っている国はまだまだたくさんあります。

死ぬ前の最後の思い出が仕事だったら悲しいですね。友だちがいっぱいできた、子どもとよく遊んだ、いろいろな体験をした、いい人生だったと振り返りたいです。ワークモライフもバランスよく楽しく生きていきたいですね。

